

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和8年3月7日

事業所名：多機能型事業所 キートス・テトラ

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	意見 (工夫している点、課題など)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	0	利用人数が10人前後になると狭く感じる事がある。利用人数や、低学年、高学年の利用者の数によって、運動の内容を考えている。	
	2 職員の配置数は適切である	7	2	0	配置数は満たしているが、利用者の心身の状況によっては配置に余裕がない時もある。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1	2	学習室の机のガタつきやコーナーガードの剥がれなど、メンテナンスの必要がある。	安全点検を実施し、必要な箇所は修繕していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	1	0	利用中の出来事はスタッフ間で共有している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	0		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1	0		保護者にも事業所の様子を知ってもらう機会を増やしていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	3	第三者の外部評価は実施していない。	外部の評価は実施していないが、同法人の他事業所スタッフと毎月のミーティングで話し合い、業務改善に向けて取り組んでいる。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	0	今年度は研修内容のヒアリングがあった。「職員の知りたいこと」を知れる研修があり充実していた。定期的に研修があり、療育に必要な基礎知識の研修がもっとあれば良い。		
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3	0	アセスメントツールはあるが、活用できていない事もある。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	0		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	3	0	発散を目的とした運動に鬼ごっこを実施中。やや固定化されているが、種類やルールは前回の利用日を見て調整されている。固定化されているものもある為、活動の種類を増やしていきたい。	子ども達の状態やニーズに合わせて固定化しないよう工夫していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	3	0	長期休暇の後半になると準備にかかる時間が減ってしまい、課題設定が曖昧になっていると感じる。長期休暇期間でしか行えない課題等はその時に行うようにしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	0		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2	0	翌日の朝礼や昼礼で振り返りを行なっている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1	0	活動記録と業務日報に記載している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	0		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8	1	0			
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	0	児童発達支援管理責任者が基本的に参加している。		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5	3	医療的ケア児は現在利用なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3	1		未就学の子どもに関して、関係機関と情報共有を行い、連携を深めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	5	1	今年度、初の卒業生が出る為、必要な情報を提供していきたい。	利用事業所に対して情報共有を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	5	1	研修等は開催されているが、必須ではないため全員が受けているわけではない。	内容は事業所内で共有を行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	5	地域の商店街でのイベントへの参加をした。	地域イベントに参加出来ている。今後も様々な利用者が地域イベントに参加できるように促していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3	4	土曜日の門司港のイベントに参加している。	機会があれば参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1	0	送迎時に利用時の様子を報告している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	2	昨年度は保護者向けの勉強会を実施できたが今年度は実施できていない。	定期的に研修が開催できるように保護者のニーズのヒアリングを実施していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	2	0	モニタリング時に適宜行っている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5	3		茶話会等を企画し、保護者同士の交流の場を設けるようにする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	3	1	SNS（インスタグラム）を活用している。	今後もSNS（インスタグラム）や個別連絡で発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	9	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0		
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	3	土曜日の門司港へのイベント参加をしている。	まずは事業所の概要を周知していけるように、地域のイベントにも参加していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	0	訓練は実施しているが、内容の改善の余地あり。	訓練の実施曜日が固定化しないように工夫する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	6	1	保護者からの情報共有に基づいて対応を行なっている。	対象児童がいる場合には意見書等を提出して頂くように説明していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	2	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。